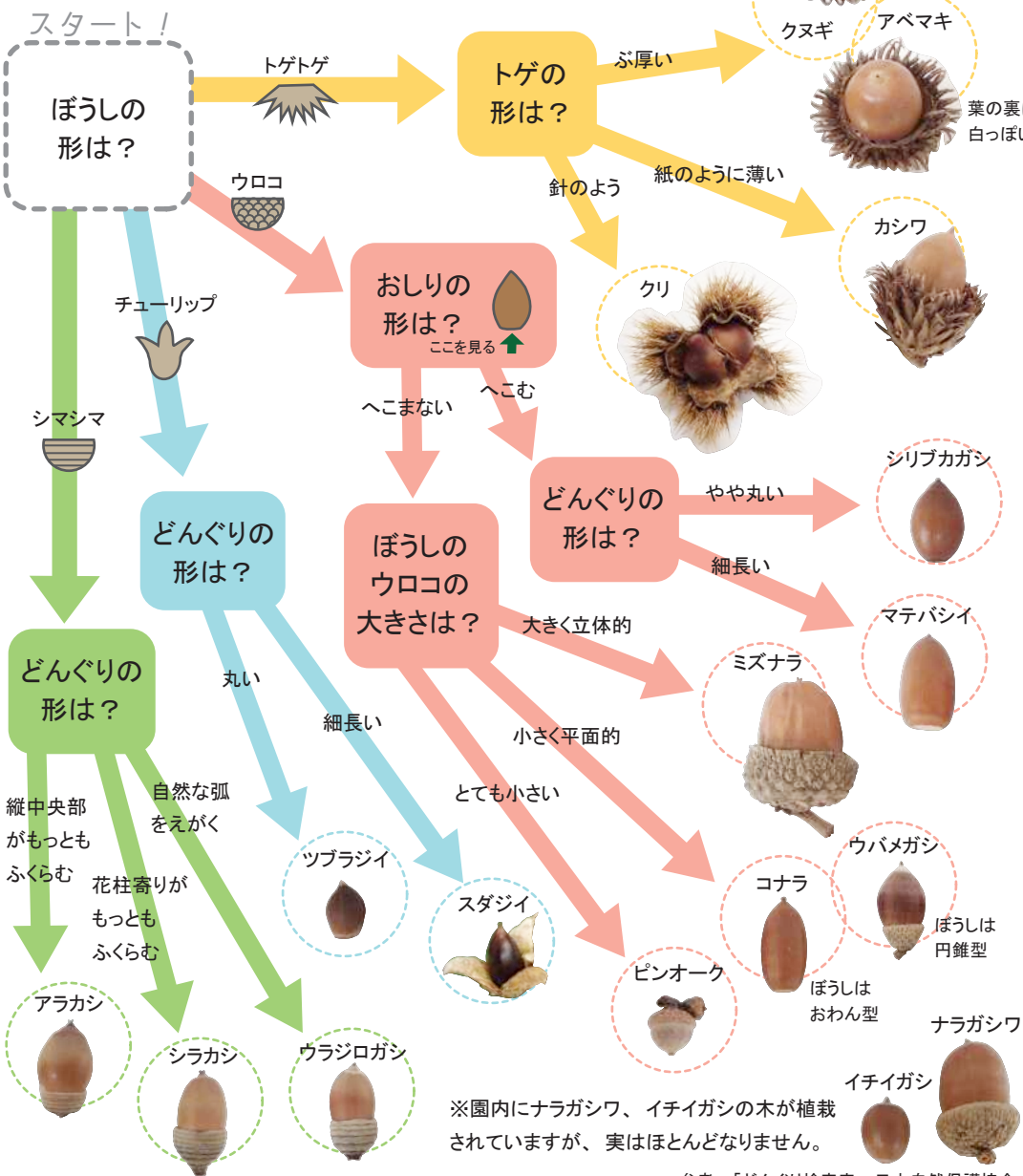


しらべてみよう！ 万博どんぐり検索表

どんぐりをつける木は世界に約 850 種類あるとされ、日本で自生するのは 22 種類。そのうち、万博公園では 15 種類のどんぐりが見られます。殻斗（ぼうしの部分）で大きめに仲間分けができます。身近などんぐりを観察して、種類を調べてみましょう。



いくつか知ってる？ どんぐりまめちしき

どんぐりの木ってどんな木？

「どんぐり」という種類の木はありません。どんぐりはブナ科の樹木の果実をまとめた総称です。どんぐりの木は冬に葉を落とす「落葉樹」と、一年中葉をつける「常緑樹」に分けられます。落葉樹であるブナやナラ類は、明るい森を作ります。東日本に集中しており、古くは縄文時代から人々に食料や生活材料をもたらす恵みの森でした。一方、常緑樹であるシイやカシ類の森は西日本に多く見られ、湿り気のある薄暗い森を作ります。稲作が伝わるとともに開拓されましたが、神社の裏山（鎮守の森）などにかつての森の面影が残ります。



一本のどんぐりの木から

実は何個ぐらいできるかな？

万博公園で見られるどんぐりの木で比べてみると…

コナラ	550 粒	シラカシ	660 粒
アラカシ	660 粒	ウバメガシ	450 粒
クヌギ	150 粒		

万博公園では、アラカシの木が一番多く植栽されているので、沢山のどんぐりが落ちているわけです。

どんぐりは食べられるの？

どんぐりの主な成分はデンプン。でもタンニンという物質（渋みのもと）が含まれていて、それを取り除くために、水にさらしたり、長時間ゆでる必要があります。タンニンは紅茶やワインにも入っていて少量なら大丈夫ですが、大量に食べるとお腹をこわしてしまいます。渋みが少ないスダジイやマテバシイは粉にしてクッキーにしたり、フライパンで乾煎りして食べることが出来ます。



▲学習館行事「どんぐりクッキーをつくろう」の様子

どんぐりの花を見たことがある？

「どんぐりの花を見たことがありますか？」という質問に、どんぐりの木に花が咲くんですかという答えが返ってくるのがよくあります。4月から5月にかけて、どんぐりの木には花が咲きます。若葉の下に垂れ下がったひも状のものが雄花で、どんぐりの雄花は色こそ地味ですがけっこう目立ちます。対して雌花はとても小さく目立ちません。



▲クヌギの雄花（左）と雌花（右）

園内のどんぐりは持ち帰れるの？

園内では、9月下旬からクヌギやカシワ、10月上旬になるとコナラやマテバシイが熟して落ち始めます。11月中旬ごろにはほとんどの実が地面に落ちてしまいます。木についているどんぐりを取ることはできませんが、地面に落ちているどんぐりは拾っていただいてもかまいません。